

## ▶ 「安全管理セミナー、S-KYT研修及び健康づくりセミナー」を実施して ◀

高崎市消防団

### 1. はじめに

高崎市は、広大な関東平野の北端に位置し群馬県を代表する都市です。日本列島のほぼ中央部にあり、古くから交通の要衝として発展し、首都圏、太平洋と日本海を結ぶ交流拠点都市として広域的な都市機能と集客力を高めています。

市の人口は37万人を超え、面積は459.16平方キロメートルに及びます。平成12年4月1日には全国で唯一市制100周年を迎え、翌年4月1日に特例市に移行しました。その後、平成18年1月23日に4町村と同年10月1日に1町、平成21年6月1日に1町との合併により現在の新高崎市が誕生し平成22年4月1日には市制110周年を迎え平成23年4月1日中核市に移行しました。

### 2. 高崎市消防団の概要

昭和22年、警防団が廃止となり高崎市消防団が設置され当時は、760名の消防団員が活動をしていました。その後、改組を行いながら昭和44年に方面隊別担当区域制度を導入しました。平成18年以降の市町村合併に伴い群馬県最大の消防団となり、平成25年10月1日には、組織の活性化、次世代の担い手育成などを目的として学生分団を発足しました。現在は、10方面隊、58個分団、76台の消防車両を有し63箇所の詰所にて1,351人の団員が消防団活動に務めています。

### 3. 研修会及びセミナーの開催経緯

全国的に消防団における安全管理体制の整備は進み、どの消防団も公務災害ゼロに向け様々な施策を実施しています。高崎市消防団においても毎年消防団幹部を対象に様々な研修・訓練等を実施していましたが、残念ながら毎年公務

災害が数件発生し、病気による入院等が増えている状況です。このような中で組織として、又消防団幹部として「大切な仲間を守るためにどのような意識でいるべきなのか？どのような行動をすべきなのか？健康に対する意識をどのように改善するべきなのか？」など、再度考えるキッカケとなるよう研修会を開催しました。

### 4. 各研修会を実施して

平成27年7月22日、部長を対象に公務災害の防止を図るために安全管理教育を行うとともに、健康増進に役立つ運動実技の修得を目的として健康づくりセミナーを実施しました。

講義では生活習慣病の基礎知識や健康管理のポイント、自身でできる健康チェック法などの講義があり「自分の生活及び行動を見直すキッカケとなった」「地域安全や家族を守る為にも生活習慣を見直したい」など団員自身の健康状態の把握と健康な体を作ることの重要性を再確認できた研修会となりました。

平成27年7月25日、正副分団長を対象に所属団員の安全管理と健康管理の重要性の認識及び理解の促進を目的に安全管理セミナーを実施しました。宇都宮指導員の体験談をもとに熱心な講義をいただき、団員から「消火活動に重きをお



安全管理セミナー



S-KYT 研修

き活動をしていたが、安全管理の重要性を再認識したとともに、所属団員に対し周知し共通認識を持ち行動することの重要性を感じた」など安全管理に対する意識改善の声が数多くありました。

平成27年8月23日、消防団活動時における危険を予知するとともに、これに適切に対応できる能力を養成するため、消防団危険予知訓練の基礎知識とその実技を修得することを目的にS-KYT研修を実施しました。研修中は、参加者から力強い発声・動作及び活発な意見交換を行う様子が見られました。現場に潜む危険について本気で考え見つけなおすとともに、再認識することの大切さや創造する力、感性を豊かに物事を捉え感じる力の必要性を感じた研修となりました。

## 5. 終わりに

近年、急激かつ大規模化する自然災害の発生や地域連携の希薄化など、消防団員の必要性が以前に増して重要になる一方、その増加する期待や責務は非常に大きなものです。

今回の研修を通して団員一人ひとりが再度、考え行動することにより、団員全ての意識が変わり高崎市消防団として益々発展していくと考えています。また、今回、各分団で活動状況などの情報交換ができたことに加え、同じ立場にある幹部の交流の場となり横の連携強化に繋がりを、より強固な絆が生まれ一丸となって消防団活動が出来るようになるはずですよ。

最後に、今回の研修開催にあたり、消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様をはじめ、講師を務めていただいた指導員の方々に感謝申し上げます。



健康づくりセミナー